

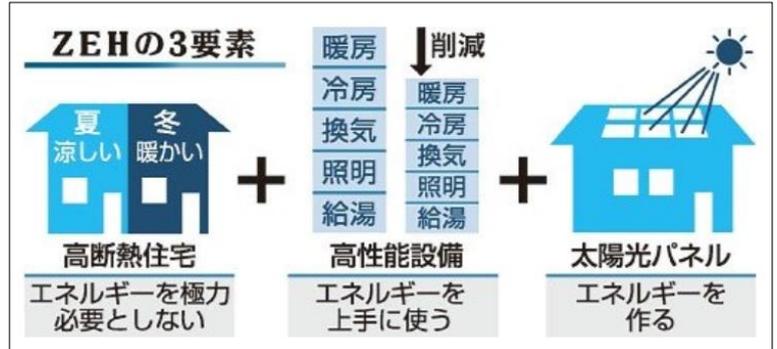


ZEH (ゼッチ) って?

◆エネルギー消費ゼロの家/高断熱で光熱費を抑制

Q-最近マイホームを建てた人からZEH (ゼッチ) という言葉を聞いたのだけど、どういう意味なの。

A-「Net Zero Energy House (ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)」の略称で、「断熱性が高く、太陽光発電で再生可能エネルギーを作ることで年間に消費するエネルギー収支を概ねゼロにする住宅」を指します。



Q-どんなメリットがあるの。

A-二酸化炭素 (CO₂) 削減による温暖化防止効果のほか、経済面では光熱費の抑制、太陽光エネルギーの売電収入などが挙げられます。住環境も向上し、夏の暑さや冬の寒さを和らげ、急激な温度変化によるヒートショックの防止にもつながります。エネルギーを自給自足することで災害時の停電にも対応できます。

Q-普及に向けた取り組みを教えてください。

A-政府は2021年10月の第6次エネルギー基本計画で「30年以降に新築される住宅について、ZEH水準の省エネ性能の確保を目指す」「30年の新築住宅の6割で太陽光発電設備の設置を目指す」という目標を設定しました。太陽光発電設備や高断熱化は初期費用が大きく、導入をちゅうちょする例も多いことから、ZEH導入に対する補助金や住宅ローン控除の拡充などさまざまな支援・優遇制度が設けられています。

Q-富山県での普及状況は。

A-富山のような降雪地域では、冬期間の太陽光発電量が減少し、エネルギー収支がマイナスになることがあります。富山では、断熱性能やエネルギー効率を高めて20%以上の省エネを図る「ZEH Oriented」が比較的普及している一方、太陽光パネルを設置して省エネ率100%以上を達成する「ZEH」の導入はあまり進んでいません。こうした状況を踏まえ、県は「カーボンニュートラル戦略」に基づき、地域の実情に応じて独自に定めた基準による「富山型ウェルビーイング住宅 (仮称)」の導入と、その普及拡大に向けた方策の検討を23年9月に始めたところです。

(この連載は北陸経済研究所の倉嶋英二が担当しました)